

都市計画審議会【改定版（素案）中間報告】の主な意見

【都市の規模に関する考え方（人口）】

○都市の規模に対する考え方に、「社会動態をプラスに転じさせる」というのは結構だが、「人口減少のスピードを緩める」ということは、もう 100 万人に戻ることはないという非常に消極的な考え方である。もっと減るスピードが加速されていくのではないか。

○「一定の人口密度を維持する区域」とあるが、一定の人口密度に関して数値として何かあるのか。

【都市計画の目標】

○都市計画の目標の「にぎわいと活力のある町づくりや訪れたい町」のところで、部門別ではキーワードとしてしっかり出ているが、「都市景観」という言葉をこの中に入れてもらえないだろうか。

【階層構造の拠点形成と次世代産業拠点】

○小倉一極集中だという意見がある。また、次世代産業拠点が街なかとは外れているところが産業拠点になっているが、これで本当にコンパクトになるのか。スポークネットワークシステムというものが必要で、拠点といわれるまでもなく、もっと次世代の小さな拠点が必要なのではないか。

【土地利用（市街化調整区域（農地））】

○農地 2 法の改正により、農用地の企業所有を認めるということになったが、各地区の市長村がある程度条件を付して許可をすることになっている。マスタープランでまだ何も触れてないが、どう考えているか。

【交通施設】

○交通施設に関する方針は、弱いような気がする。コンパクトなまちとまちをどのようにつないでいくか、どう利便性を高めて次の世代が住んでも利便性が高まっていくということをもう少し打ち出して欲しい。

【住宅・住環境】

○今、市内で大きな社会的問題として、老朽家屋が激増しているという問題がある。その一方で、学研都市なども含めて、都心部でないところの住宅開発がどんどん進んでいる。アンバランスな政策の展開が実際にされているので、もう少し検討していくべきではないか。

○北九州市も人口が減っていく状況が、ある程度見えている状態の中で、住宅の総量規制が必要になってくるのではないか。

【都市防災】

- これまで取り組んできたハード対策と減災対策が必要で非常に大事であると思うが、今回の朝倉地方は多大な雨を受け、本当に想定を超える災害が、実際、数年に一度、頻繁に起こる状態が続いている。もう少し想定自体を見直していく、その上でのハード対策を打ち出していいのではないか。
- 「減災」というところで、ソフトの仕組みづくりが、このマスタープランの中にどこまで入っているのか。

【地域別構想への市民参加について】

- 前回の都市マスでは、地域の方々が参加してワークショップ等を行ったという背景がある。20年間の先を読んでいく状態の中で、住民の方々がしっかり考えていく。要するに財政上の問題等も、これ以上行政に対して負担ができないという視点で考えていくような時は、やはり地域住民が入って自らの問題として取り上げていく姿勢がものすごく大切なので、もっと積極的な参画というのができるような方策は検討できないか。

【計画の推進について】

- 街なか重視という点で、立地適正化計画がこの4月から始まったわけですが、強制力があるものではない。ただ、意見が出ているのは地域を外れたところ、例えば、不動産の鑑定が下がる、不便な地域と烙印を押されたということでの不満も一面ではある。そういうこともしっかり把握をしたうえでやっていかなければならないと思う。
- 富山は推進するための施策、特に優遇措置、誘導措置、そして財政的な裏づけというのをかなり強力でやられている。富山の市民の中にも賛否両論ある。本気で取り組むという場合は、絵に描いた餅にならないようにしなければならない。マスタープランという非常に大きな計画を推進していくためには、かなり強力な施策の展開をやらないと実際進んでいかない。しっかり市民の意見を聞いたうえで、議論を戦わせながら、良いものをつくって、良いものを実際に推進していくということが求められていると思う。

【ストックの定義】

- ストックの定義は、人工的なものだけを指すのか、自然のものも指すのか。